



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

内視鏡科

PTEG(ピーテグ) いろいろ ～胃瘻造設困難な患者さんに対する栄養管理法～

内視鏡科では胃カメラや大腸カメラを初めとした内視鏡検査、治療を中心に行っています。内視鏡以外にも、患者さんのメリットになる消化器内科的な治療手技にも積極的に取り組んでいます。そのうちの一つが今回紹介するPTEG(ピーテグ:経皮経食道胃管挿入術)です。

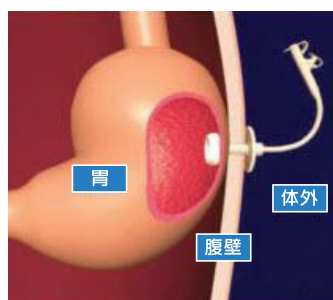


図1 PEGのイメージ

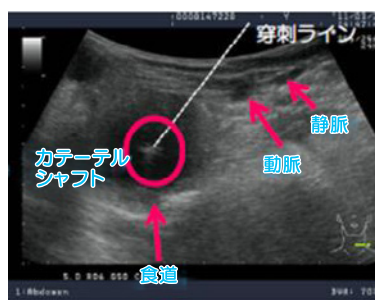


図2 PTEG実施時の超音波画像



図3 PTEG実施時のレントゲン画像



図4 PTEGのイメージ

種々の疾患で口から栄養を摂取することができなくなった患者さんの長期栄養管理法として、代表的なものにPEG(ペグ:経皮内視鏡的胃瘻造設術)があります(図1)。PEGは胃カメラを用いて患者さんの腹壁を経由し胃に栄養投与チューブを留置する方法で、患者さんの体の負担が少なくて済みます。しかし、胃を切除された方、腹水が貯留した方、解剖学的に胃の前面に他の臓器が存在する方などではPEGは不可能です。そういった患者さんには、これまで当院では外科的な胃瘻造設術か、鼻から胃まで挿入するチューブ(経鼻胃管)などで対処してきました。

PTEGは内視鏡を使わず、レントゲン装置とエコーを用いて実施する手技です。患者さんの頸部から局所麻酔下に専用処置具で穿刺し、栄養カテーテルを留置します。PEGが不可能な患者さんに対する代替治療であり、身体への負担は比較的少なく、PEGと遜色ない治療効果が期待できます(図2~4)。

今後さらに顕著となるであろう超高齢化社会においては、PEGだけでなくPTEGの活用が重要となることが想像されます。

(内視鏡科 副部長 小野 英樹)

精神神経科

生まれ変わる 県立病院精神科

平成の終りと新しい時代の幕開けという、歴史に残る出来事が近づいていますが、大分県立病院の精神科も大きな変化を迎えようとしています。

現在、当院の精神科では外来患者さんの診療を行っていますが、病棟がありませんので、入院治療を行うことができません。通院中の患者さんに入院が必要となった場合には、他の病院を紹介して入院治療を行っていましたので、ご不便な思いをされた方もいらっしゃると思います。また、救急患者さんでも精神科の入院治療を必要とする場合、受け入れることができませんでした。

このような状況を打開するため、数年前から当院精神科に病棟を建設する計画が動き始めました。そして、精神科は「精神医療センター(仮)」として生まれ変わることになりました。精神医療センター(仮)は、当院の敷地内に2階建ての別棟として建設され、病床数は36床を予定されています。当院は総合病院として多くの科の診療を行っていますので、身体合併症のある患者さんも入院治療を受けることができます。

また、精神科救急患者さんの受け入れを休日や夜間でも対応できるように準備を進めています。

精神医療センター(仮)はすでに建設工事が始まっており、2020年度中の開設に向けて、より県民に寄り添った医療を提供できる病院を目指してまいります。



精神医療センター新築工事 外観完成予想図



(精神神経科 上本 裕貴)



精神医療センター新築工事 内観(2F食堂)イメージ図